

1. はじめに

本校においてここ高等教育機関としてふさわしい質の高い教育を行うために、カリキュラムの見直しや設備の充実をはじめ、企画・教務部や各学部においてさまざまな改革や試みがなされてきた。それらが効果的にかつ実質的に実施され、成果をあげていくためには、各種制度の運用や実行に関しての組織的支援体制の確立と運用、そしてITを利用した教育・学生生活支援システムの活用が不可欠である。しかし、本校には情報工学科という情報技術を専門的に学習する科が存在するがデジタル化が実現できていない。また、本校においてITを利用した教育・学生生活支援システムは教員を対象とした事務部門で一部運用されているが、教員と学生へのサービスを意図したシステムは残念ながら存在していないのが実状である。そこで教育の質の向上を目指した学生生活支援システム(学生生活支援情報をデジタル化したサービス)の構築を目指すテーマを研究テーマとした。

私が所属するアプリケーション開発研究室では、総力を挙げてネットワークを利用した学生及び教員の支援を行うシステムを開発、提供することで本校におけるITを利用した教育サービスの向上に寄与することを目的とした。

2. 機能

このネットワークを利用した学生及び教員の支援を行うシステムの機能は大きく分けて二つに分類される。教育の快適さを上昇させるために課題の提出状況やシラバスでは分からない授業内容の詳細や配布プリントのダウンロード、板書の内容など、各授業に関する情報を取得及び表示、さらには課題の提出もすることができる「教育支援サービス」と、一授業に留まらず学校からの総合的な情報を含めて個人を対象とした情報の取得及び通知することができる「学生生活支援サービス」である。今回担当するのは後者のサービスである。

学生生活支援サービスのメインとなる機能は「お知らせ」である。これは、前述したとおり学校側から学生一人一人に対してその学生に関連する伝達事項を表示するシステムであり、機能的なメッセージリストといった使用感を想定している。また、パーソナルコンピュータからのみの閲覧では使用機会が限定されるため、指定したアドレス(携帯電話を想定)に伝達事項を転送できるように設定できる。

また、送信時に伝達事項の内容に重要度を設定できるようになっており、その重要度によって指定アドレスに転送するかどうかの設定も同様に行える。

また学生生活支援サービスのもうひとつの機能としては個人情報の取得がある。これも学校生活の利便性を高める上で欠かすことができない点である。従来のシステムで情報を得ようとするとき人を介する必要がある、少し億劫となる場合もあるが、ネット上から引き出せるならばそのような負担は皆無である。

本人確認のための認証に関しては学校から指定したIDとパスワードとして予め決めておき、パスワードは変更可能とする。仮にパスワードを忘れたとしても、学校では学生証による本人確認も容易なので忘れたら永遠に確認できなくなることもない。

3. 効果

この機能が実用化されることになれば、教員が校内放送を使って呼び出して印刷したプリントを渡すといった面倒で時間のかかる工程が大幅に短縮できることになる。学生としても情報がネットワーク上にあれば、わざわざ学校の掲示板を確認に行く手間が無くなるだけでなく、いつでも必要な情報を手に入れられるため必要な情報が行き届かないという問題も改善される。誤情報の発信や、情報が途中で変更を余儀なくされたときの情報改訂に際しても、情報伝達の遅れが致命的となる掲示板と比べて遥かに容易に訂正できる。掲示板確認を習慣にするのは難しくても、インターネット上のサイトに少し目を通すくらいなら環境さえあればいつでも可能で、習慣化も難しくないのが、学生の自己責任という言葉も理解を得やすいはずである。

4. 結論

提示した機能を実現するプログラムの開発が行われ、学生生活の質向上のための支援サービスが早期に実施されることを期待する。

文献

- [1] 坂下夕里著, “これならわかるC入門の入門” 翔泳社, 2005年5月